

# 茨戸で ボート競技をするにあたって

## はじめに

ボート競技には 特有の『危険』がある

後ろ向きに、結構なスピード (チャリくらい) で進む ⇨ **見えない** **ぶつかる**と**大ケガ**

水の上で行う (水の中に落ちる可能性がある) ⇨ **すぐに助けに行けない** **溺れ死ぬ**

## 1. 艇庫の使い方

### 艇庫とは

「茨戸川漕艇研修センター」 ≠道漕艇庫 ではない。 1986 (昭和 61) 年完成  
所有者 北海道体育協会 管理者 北海道ボート協会

したがって、我々 (札幌ボート協会) だけのモノではない。北海道内の全ての選手が使うもの。  
日常的には札幌の加盟団体が使うことが多いが、「自分たちの艇庫」では無い ことに注意。

## 2. 艇の使い方の基本

基本的なエチケット 艇をまたがない オールをまたがない ウマ・スリングに座らない  
使ったオール・艇は必ず水で洗い、そして拭く 壊れたら、必ず自分で直す

## 3. 茨戸コースの使い方の基本

ペケレット方面は生振大橋まで (これは漁業者との約束)。それより奥には絶対行かない。

新人は 艇を自在に回す  
声出しの練習 → 声を出して、他のクルーを止める  
真っ直ぐ進む } これをジョイフォア、2×で練習させ  
出来るようになってから単独出艇

## 4. 茨戸 とは？

適当な長さの”水たまり”。かつ、流れがほとんど無いので、ボート競技には最適。  
ここは、石狩川の旧河道＝三日月湖。1931 (昭和 6) 年に治水の目的で大きく蛇行していた石狩川 (オレンジのライン) が直線的にショートカットされたため、残されてしまった残骸。

茨戸漕艇研修センターを利用される皆様 2021/6/14  
一社) 札幌ボート協会  
会長・中川信治

**誰もが称賛する艇庫を目指して (お願い)**

茨戸の艇庫は自分達の家と同じです。皆さんと共に艇庫内を今まで以上に整理整頓して艇、オール、ローエルゴ、船台、駐車場、花壇、宿泊施設など、マナーを守り、すべての物を大切に使いたい。自然が豊かな素晴らしい環境の茨戸川、艇庫周辺を綺麗にし、誰からも称賛される艇庫にしたい。ご協力ください。

**A. 艇庫内の整理整頓 (艇庫内の不要なオールの処分)**

目的・理由はオール保管場所の整理をし、艇庫内を今まで以上に綺麗にする。

1. 全く使っていない所有者不明のオールが多々ある(使った形跡無し)。
2. 艇庫を利用する方、合宿などで使う団体がオールを保管する場所がない。
3. 今後の予定
  - ① 6/12 (土) に艇庫運営委員会の関係者で所有者不明のオールを、外のエイトの横に移動しました。希望者には提供するので、柏谷氏に申し出る事。
  - ② 7/6 (火) 以降にオールを廃棄します。
  - ③ 緊急事態宣言解除後、自分達の保管オールの場所に名前を明記する。

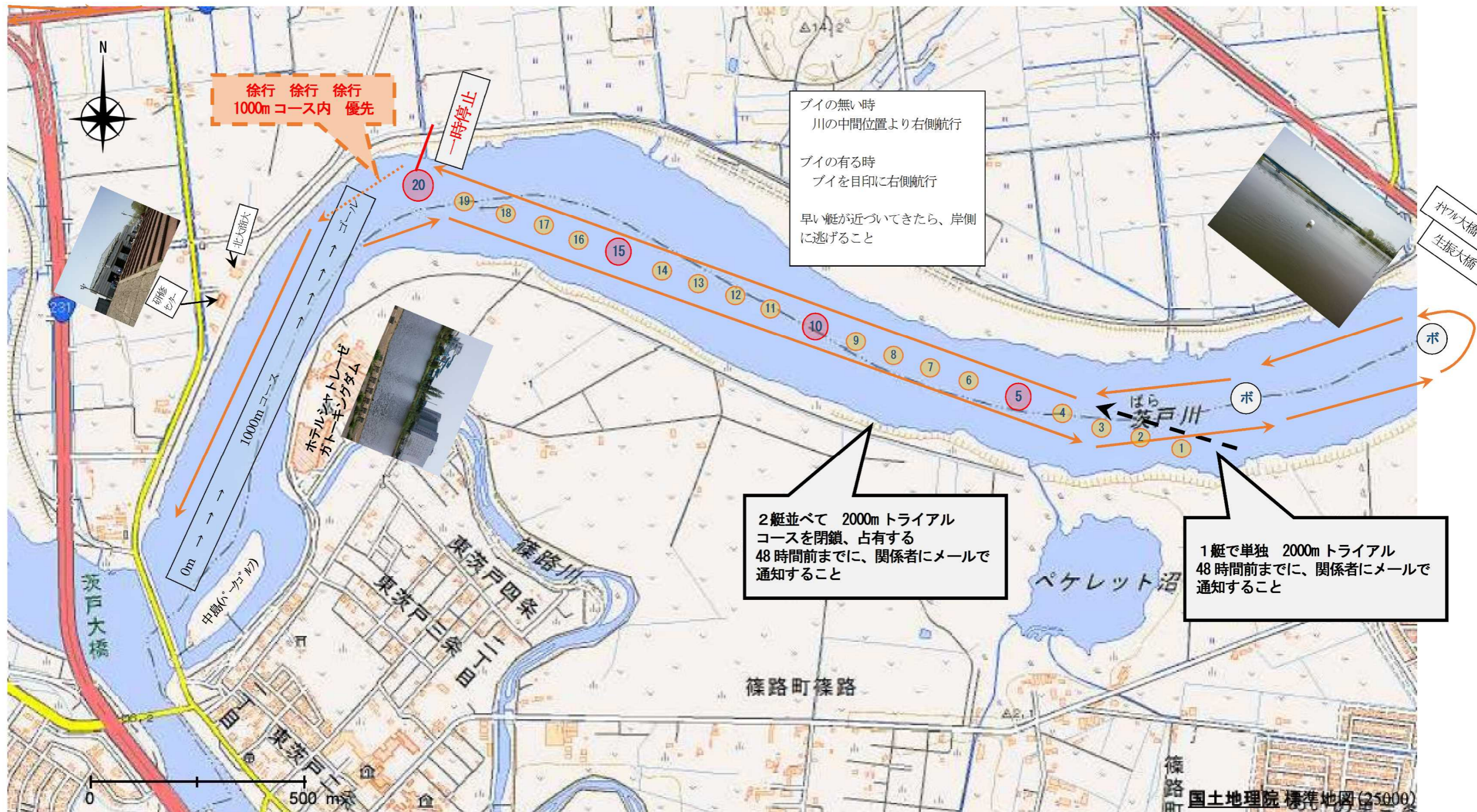
**B. 挨拶の徹底と感謝の気持ちを言葉にして伝える**

以前からお願いしていますが、下記の当たり前の事を徹底して下さい。

- ① 艇庫に来た時は、会った人に大きな声で気持ちをこめて挨拶をする。
- ② 特に相手の目をみて自分から先に声をかける。相手に聞える声で、相手が見えるように大きな声でお願いします。
- ③ 挨拶は世界の共通語、コミュニケーションの最初です。
- ④ 花壇や草刈り、コースプイの設置、船台のブラシかけ、艇庫の壁やシャッター、Joy フォアや艇の修理、シャワー室、トイレ掃除等をしている方を見かけたら、素通りせずに「ご苦労様です、ありがとうございます、何か手伝いますか」と声をかけ、感謝する気持ちを忘れないで下さい。



茨戸の地図、上流部（引用 国土地理院）

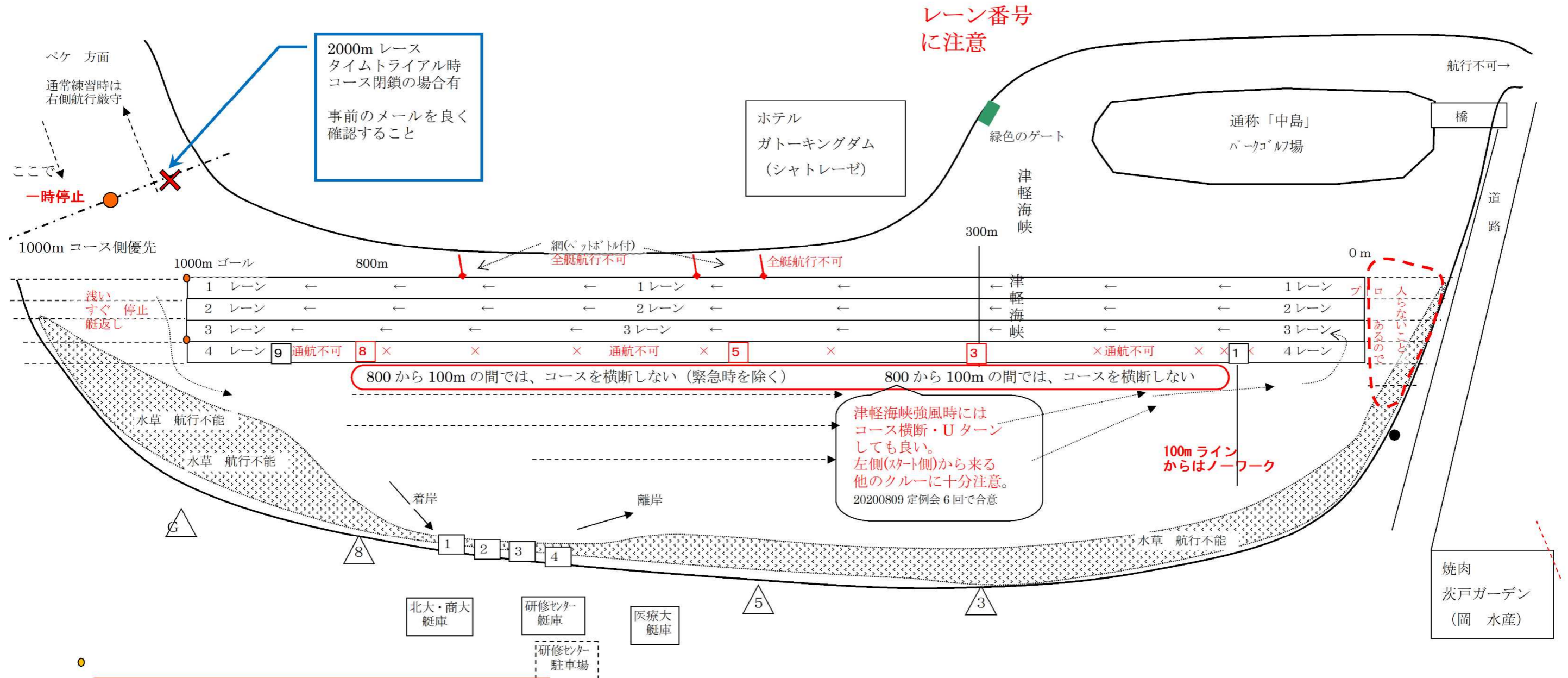


1000m コース図

鉄則 前後左右を見回して、艇こぶつかるな

2021 茨戸1000mコース図 (通常時)

2021.01.20 総会后 作成責任 札ポ水路部 亀山聖二



**休憩・話し合い はコース外で**  
 2、3レーンが速い艇、1レーンが遅い艇  
 遅い艇は、速い艇が来たらガトキン側  
 1レーン側によける

**0m と 1000m でUターンしたら、**  
**すぐに漕ぎ出す！**  
**給水・相談・技術練習はコース外で**

安全にボートを漕ぐために(茨戸共通認識)

まず	朝 起きたら天気予報確認。茨戸に着いたら、水面の波と風速チェック！
霧	艇庫から中島(パークゴルフ場)が見えない時は 出さない！
雷	ゴロゴロ と雷の音が聞こえたら まず陸に戻る。緊急時はコースルール無視で良い。
沈艇	沈艇につかまって、泳がない！ ランディングから艇が流されても、泳いで取りにいかない。
その他	救助モーターボートの運転講習をやる。自前のモーターを持っていない団体は要。

<p>柏谷 仁 さん 北海道ボート協会 研修センター管理運営委員</p>	
<p>小林 敬史 さん 札幌・北海道ボート協会 研修センター管理運営委員</p>	
<p>中川 信治 さん 札幌ボート協会 会長 研修センター管理運営委員</p>	
<p>本間 公康 さん 札幌ボート協会 副会長 研修センター管理運営委員</p>	
<p>坂井 正 さん 札幌ボート協会 副会長</p>	
<p>江川 厚志 さん 北海道ボート協会 理事長 北大 監督</p>	
<p>谷津 法彦 さん 札幌ボート協会 商大 監督</p>	



; モーターの免許持っている人

<p>稲垣 嘉彦 さん 石狩翔陽監督 研修センター管理運営委員</p>	
<p>金谷 智 さん 石狩翔陽 顧問</p>	
<p>菊池 純一 さん 石狩翔陽 顧問</p>	
<p>大熊 達也 さん 北大コーチ 札幌ボート協会 研修センター管理運営委員</p>	
<p>川上 健太郎 さん (DRC) 札幌ボート協会 Doshin Rowing Club</p>	
<p>亀山 聖二 札幌ボート協会 理事長 研修センター管理運営委員 北大 元監督</p>	

救助してもらったら、必ず一言 お礼 を言いに行くこと。